

第1学年

# なにに見えるかな？

～気付いた色や形を言葉で表してみよう～

- めあて
- ・作品に興味をもち、自分から進んで鑑賞しようとする。
  - ・作品を鑑賞して、形や色など気付いたことを言葉で表す。

- 準備物
- ・探検バッグ、筆記用具（児童）
  - ・鑑賞作品8点、カード（教師）



〈作品鑑賞。作品に浸る。〉

〈カードを見せ合う。〉

〈全体で鑑賞をする。〉

学習の流れ	実践上の留意点
○課題について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の机やイスを片付けて、鑑賞作品を額縁に入れてイーゼルに飾ることで、美術館のような雰囲気づくりに心がける。子どもたちに期待感をもたせるような声かけをする。</li> </ul>
○作品8点を鑑賞する。（ピカソ・ミロ・シャガール・クレーなど、カラーコピーしたもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきなりカードを書くのではなく、3分ほど、作品を見て回り、まず浸らせる。</li> <li>・8点の中から1番気になる作品または気に入った作品の前に移動させる。それを1番目に鑑賞する作品とさせる。</li> </ul>
○作品を見て、色や形で気付いたことや思ったことなどをカード（「読み札カード」と呼んだ）に言葉や文で書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品をよく見て、色や形など気付いたことなどをカードに書くようにさせる。（例「赤や水色のビー玉がいっぱいある」）なかなか書くことのできない子には助言する。</li> </ul>
○全体で読み札カードから、どの作品について書いたものかを当てっこをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず一人の子どもに書いた読み札カードを発表させてから、どの作品について書いた言葉（文）なのか他の子どもたちに予想させる。そして予想した理由も発表させる。言葉にすることによって、よりじっくりと作品に目を向けようとする意識を育てたい。</li> </ul>
○同じ作品について、別の子どもが書いた読み札カードを発表し、深め合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ作品に対する読み札カードでも、書く人によって着眼点やとらえ方が異なることに気付かせる。</li> </ul>